

JICA 海外協力隊 赴任前留意事項

パプアニューギニア独立国



※本資料に記載の情報は、作成日現在のものであり、その後状況が変化している場合があります。記載内容については正確を期していますが、万が一誤りがあった場合には JICA は責任を負いかねますのでご了承ください。

※本資料は JICA 海外協力隊を対象としたものであり、その他の方には該当しない情報も含まれている可能性があります。

目次

1. 赴任時の携行荷物について
2. 別送荷物について
 - (1) アナカン・郵送等の利用について
 - (2) 通関情報について
3. 通信状況について
 - (1) パソコンの普及状況
 - (2) 携帯電話の普及状況
4. 現金の持ち込み等について
 - (1) 現金持込にかかる注意
 - (2) 両替状況
 - (3) 赴任時に用意することが望ましい金額について
5. 治安状況について（JICAの安全対策については、隊員ハンドブックを参照）
6. 交通事情について
7. 医療事情について
8. 蚊帳について
9. 任国での運転について
10. お問い合わせ
11. その他
 - (1) 到着日について
 - (2) クレジットカードについて
 - (3) 服装について
 - (4) 電気、電力事情について

1. 赴任時の携行荷物について

(1) 赴任時に必ず持参するもの

※隊員ハンドブック 3-5 出発時の注意事項を必ず確認の上、ハンドブックに記載されている「手荷物として持参するもの」に加えて、以下を持参ください。

- JICA 海外協力隊ハンドブック
- 様式集データ（訓練時に配布されます）
- 公式行事用服装（スーツ等、Y シャツ、ネクタイ（※2））
- ※ 2 女性の場合、それに準ずるもの
- 医薬品（使い慣れている家庭常備薬、使用中の処方薬、体温計等）
- Health & Medical Record、ワクチンの接種記録（新型コロナウイルス含む）
- 印鑑（シャチハタ印、百均等で売っているものでも良い）
- SIM フリースマートフォン（※3）

※ 3 日本の大手通信会社（ドコモ、au、ソフトバンク）と契約した上記機器は利用当初 SIM ロックがかかっています。SIM ロックを解除（SIM フリー）することにより当国でも利用可能となります。SIM ロックの解除方法は、契約している通信会社にお問い合わせください。（対応バンド帯は 700MHz、対応バンドクラス 17）

(2) 携行を推奨するもの（メーカー、品質等にこだわらなければ当国でも入手可能です）

- パソコン（必要に応じて、外付けハードディスク、USB メモリー）
- モバイル Wi-Fi ルーター（インターネット接続のため）
- モバイルバッテリー（停電対策のため）
- 皮膚が弱い・敏感な方は、使用したことのある虫よけスプレー
- 変圧器（持参する電気機器が 100V のみ対応の場合）

2. 別送荷物について

(1) アナカン・郵送等の利用について

- 日本から荷物を別送する場合、以下の方法があります。一般的には、EMS（国際スピード郵便）がよく利用されていましたが、現在、当国宛の荷物の発送は取扱い停止中です。

種類	所要日数の目安 安注 1, 2)	参考ホームページ
DHL (国際宅配便)	数日	https://www.logistics.dhl/jp-ja/home.html
TNT (国際宅配便)	数日	https://www.tnt.com/express/ja_jp/site/home.html
郵便局 (普通郵便)	数日～数か月	https://www.post.japanpost.jp/cgi-kokusai/country.php?cid=157

注 1) (上記は Web サイトからの情報ですが、) 実際には最低 1 週間程度は必要です。船便の場合は半年以上かかる場合もあります。

注 2) 「所要日数の目安」は、首都であるポートモレスビーまでの目安です。地方への移送には更に時間と国内送料が必要になります。

- 赴任前に荷物を郵送したい場合、JICA PNG 事務所宛に郵送します。
JICA PNG 事務所宛先

宛名	Attn. ローマ字で本人名を記入
宛先	JICA Papua New Guinea Office
住所	P. O. Box 1660, Port Moresby, N. C. D., Papua New Guinea
電話	675-321-2677

- 梱包リスト(Packing List)、送付状の「内容物(Contents)」の欄には内容物を正しく記載してください。過去、記載内容と内容物が異なり、トラブルになったケースがあります。
- 別送荷物を送付された場合、PNG 国内での荷物引き取り時に、別途手数料や保管料などの追加経費が発生しますので、留意してください。
- 別送荷物を送られる方は、税関手続きをスムーズに実施するために、あらかじめ PNG 事務所にお知らせください。
- 一般的な生活用品、家庭電化製品については、メーカー、ブランドにこだわらなければ、購入可能ですので、過度の別送は必要ありません。
- なお、首都のポートモレスビーから任地への移動は、セントラル州は車で、他州は飛行機での移動となります。国内線の機内持ち込み重量は 7kg、預入荷物は 16kg となっており、それを超えると超過料金（任地により 1kg につき約 100～700 円）が発生します。

(2) 通関情報について

- 派遣取極により隊員の持ち込み物品については、赴任後半年以内は免税となっています。しかしながら、そのことが税関職員に十分周知されておらず、持ち込んだ物品が開封前である場合、新品と判断され関税の支払いを求められる等トラブルになったケースが過去にありました。持ち込みにあたっては物品が開封済み、使用済みであるように梱包することをお勧めします。
- 空港での持込荷物、郵送荷物は開封され、税関及び検疫（食料品等）のチェックを受ける場合があります。
- 食品、その他持ち込み品については、入国時に記入する申告カードに正確に申告してください。正確に申告をせず、それが見つかった場合、物品を没収され罰金を支払う必要があります。
- DVD 等は検閲されることがあり、その場合一時預かりの対象となります。露出度の高い音楽 DVD 等も厳しくチェックされることがあり、返却されない可能性があるため持ち込みしないことをお勧めします。
- 露出が高いグラビアが掲載されている一般雑誌の持ち込みは禁止されています。これらは税関で厳重に取り調べられますので持ち込まないでください。

3. 通信状況について

(1) パソコンの普及状況

①. パソコン及び周辺機器について

- Windows パソコン、Apple 社製パソコン、その他周辺機器は、当国でも購入可能です。ただし、英語版であることや、日本と比べ販売店舗数、商品の品揃えが少ないため、価格性能比で割高であるため、パソコン（必要に応じて、外付けハードディスク、USB メモリー等）は日本で購入して持参することをお勧めします。
- パソコントラブルに備え、パソコンに付属のリカバリーディスク等は必ず持参してください。
- MS OFFICE 等のビジネスアプリケーションは当国で販売されていますが英語版のみです。活動報告書等 JICA への提出物は、ワード、エクセル形式ですので、予め日本で導入することをお勧めします。（Office 互換性アプリは、書類のレイアウトが崩れるなど、トラブルが発生することがあるため、利用はおすすめしません。）
- 現地の配属先のパソコンは、コンピューターウイルスに感染していることがよくあります。USB メモリーや、外付けハードディスクを介して感染する可能性がありますので、予めウイルス対策ソフトを導入しておいてください。
- 日本から持参することが困難な周辺機器（プリンター、UPS(無停電電源装置)など）は当国でも入手可能です。

②. インターネット接続について

- 持参した SIM フリーのスマートフォン、もしくはモバイル Wi-Fi ルーターより、現地通信会社のモバイルデータ通信サービスを利用してインターネットに接続することが可能です。パソコンでインターネットをする場合、スマートフォンをモバイルデータ通信接続してテザリング接続するか、モバイル Wi-Fi ルーターを介して接続することが可能です。
- 当国のデータ通信サービスの料金は日本に比べて割高です。日本のように月額一定料金を支払うことでデータを無制限に利用できるサービスは非常に高額であるため、データ容量制限ありの通信プランを利用するのが当国では一般的です。
(例：Digicel 社 30 日プラン、データ通信容量：20GB、料金：PGK 50 (2,054.03 円。2023 年 11 月レート：1PGK=41.0806 円))
- 通信スピードはプロバイダ、地域、時間帯、電波状態等によって異なりますが、256kbps～10Mbps 程度です。4G/LTE 対応地域が拡大していますので今後改善される可能性があります。
- 通信途中で切断する頻度は、日本と比べ非常に多いです。
- JICA 事務所内では、個人のスマートフォン、パソコンを Wi-Fi 接続設定することで、インターネットを利用することが可能です。
- 参考情報：現地通信会社の Web サイト
Digicel： <https://www.digicelgroup.com/pg/en/mobile.html>
bmobile-Vodafone： <https://www.bmobile.com.pg/>
Telicom： <http://www.telikompng.com.pg/>

(2) 固定電話、携帯電話の普及状況

- 先に記載した通信会社 3 社が携帯電話通信サービスを展開しており、主要都市で通信通話が可能です。ただし地方によっては（あるいは時間帯等によっては）、ある通信会社が使えない場合があります。
- 当国は通信事情があまり良いとは言えません。話し中に切れることも多く、時間帯、場所等によってつながらないことが時々あります。
- 離島、へき地などではまだ通信インフラが整っていないため、携帯電話の利用できないところが数多くあります。出張等でそのような場所へ移動する場合、各任地に配備している衛星携帯電話を持参します。
- 固定電話については、都市部の場合設置は可能ですが、設置に時間がかかります。村落、山間部等の場合、固定電話回線自体がないため設置が不可能な地域が多いです。

4. 現金の持ち込み等について

(1) 現金持込にかかる注意

日本円、US\$、豪\$などの主要通貨が、現地通貨である PGK=パプアニューギニア・キナに両替可能です。当国到着後、海外手当（現地生活費）受け取りのため、PGK 口座を開設しますが、口座作成に約 3 週間、そして入金までに約 2 週間の日数を要することから、到着日以降の当座の生活費として、日本円、もしくは主要通貨を持参してください。赴任時に用意することが望ましい金額は、(3)に記載します。

なお、20,000PGK（約 82 万円。2023 年 11 月のレート：1PGK=40.0806 円）を超える外貨の持ち込みにあたっては入国時に申告が必要になります。紛失や盗難等の危険性があるため現金の管理には注意が必要です。持ち込みは必要最低限に留めるようにしてください。

参考：為替レート情報

<http://www.bsp.com.pg/International/Exchange-Rates/Exchange-Rates.aspx>

(2) 両替状況

首都ポートモレスビーでは、US\$、豪\$等の主要通貨の現金の両替が可能です。ただし、地方での両替は限定される場合があります。ポートモレスビーのジャクソン国際空港では日本円から直接キナに両替することも可能ですが、レートは非常に悪いため、日本国内で豪\$等に両替してから

赴任することをおすすめします。

(3) 赴任時に用意することが望ましい金額について

現地通貨の銀行口座（BSP 銀行もしくは Kina 銀行）開設後、事務所から最初の海外手当を振込みます。以後は、四半期ごとに本部から現地生活費約 3 ヶ月分が振り込まれますが、着任時に持参されることをお勧めする金額は以下のとおりです。

- 生活費、生活用品の購入費 約 10～15 万円/月

5. 治安状況について（JICA の安全対策については、隊員ハンドブックを参照）

(1) 犯罪に関する特徴及び傾向、JICA 関係者の被害状況

- 治安の悪さが国民生活に大きな影響を与えており、政府としても法秩序の回復を最優先課題の一つとして取り上げ、犯罪防止に取り組んでいます。
- 犯罪の特徴は、政情不安を原因とするテロとは異なり、窃盗、強盗、家宅侵入、カージャックが中心で、ラスカルと呼ばれる犯罪グループによるものが主体となっており、近年では銃器を利用した犯罪が増えています。また、加害者がアルコールや麻薬の影響下にある場合が多いことから、不用意に相手を刺激しないよう無抵抗に徹し、冷静に相手側の要求に応じる必要があります。
- 部族単位の郷土意識が強く、現在も国内各地で部族間の紛争がしばしば発生します。最近では従来の弓矢に代わって銃器が使用されるようになり、被害が第三者に及ぶ可能性もあるため、十分な注意が必要です。
- JICA 関係者の犯罪被害発生数は多く、このうち前述の窃盗、強盗、家宅侵入、カージャックが半数以上を占めています。パソコンやデジカメ等を含む貴重品の盗難被害に備え、海外保険に加入されることを強く推奨します。
- 外国人である日本人は非常に目立ちます。華美な服装、デジカメ、腕時計、スマートフォン等高価な持ち物の携行は犯罪を誘発する要因となり得るため、現地の人と同じような身なりをすることをお勧めします。また、犯罪に巻き込まれた場合、すぐに逃げられるよう、サンダルではなく、動きやすい運動靴を履くことも有効な防犯対策となります。

(2) 安全対策にかかる原則

安全対策コンサルタントによると、自己責任に基づき自ら安全対策を心掛ける欧米人と異なり、日本人は「安全は無料で提供されるもの」、「自分は大丈夫」と考える傾向が強いとのこと。事務所では、関係者の安全確保を第一優先業務として取り組んでいますが、2 年間を無事に過ごすためには、やはり一人一人が「安全は与えられるもの」という安易な考えを排し、「己の身は自ら守る」という断固とした意識を持つことが肝要かつ不可欠です。隣人、地域コミュニティと緊密な関係を築くとともに、情報収集に努め、狙われない、犯罪に巻き込まれない行動様式を一日も早く身に付けることが必要です。加えて、防犯設備、防犯機器を利用し、不注意な鍵の掛け忘れ等は絶対にならないよう心がける必要があります。

(3) 治安対策

①. 事務所安全対策

事務所では、以下のような安全対策を講じ、関係者の安全確保に努めています。

- 衛星携帯電話貸与：任地で携帯電話が不通となる可能性を鑑み、各派遣地域の代表者に衛星携帯電話の貸与を行っています。
- 住居防犯：住居の安全状況を確認し、必要に応じて、防犯設備及び防犯機器の設置等の支援をしています。また、安全のために滞在可能なホテルリストを作成しており、PNG 国内旅行時（私事旅行・業務出張）には同リスト内のホテルに宿泊することが求められます。
- 情報提供：赴任時、治安状況及び安全対策のブリーフィングを実施しています。また、安全対策連絡協議会を定期的開催し、関係者居住地域の治安・交通・医療状況や経験等の安全関連情報を共有し、安全対策に対する意識の向上を図っています。
- 安全対策アドバイザーの設置：24 時間 365 日セキュリティ状況に関する情報収集・分析及

びアドバイスをを行います。

- 事務所に安全対策担当職員を配置し、国内の治安情勢及び各地の治安状況に関する情報収集及び提供、緊急時や交通事故時の対応など、安全対策全般に対応しています。

②安全対策連絡協議会

安全対策においては、上述の関係者各自の対策、事務所からの情報共有のほか、関係者間の協力も重要な要素となります。交通安全、健康管理を含む全般の安全対策をより効果的なものとするため、JICA 関係者同士が主体的に関与する場として関係者全員参加のもと、安全対策連絡協議会を定期的実施しています。

6. 交通事情について

現在、首都ポートモレスビーを含む首都圏（NCD）においては、治安上の理由により、徒歩移動及び公共交通機関（バス、タクシー）の利用を禁止しています。その代替移動手段として、JICA PNG 事務所がセキュリティ会社と契約して車両を借り上げ、それを運用しています（当該備上車両を、「ボランティアバス」と言います）。隊員は当該備上車両を利用して NCD 内を移動します。首都から地方都市への移動手段は、セントラル州には備上車両、他州には飛行機となります。これは、本島の陸上交通網が十分整備されていないためです。

地方都市での市内移動は、公共交通機関：PMV（Public Motor Vehicle）のバスが利用可能です。ただし、現在隊員が派遣されていない地方都市によっては、首都ポートモレスビーと同様に、治安上の理由から PMV の利用を禁止している都市があります。これらの地方都市内では PNG 事務所が別途定める方法で移動する必要があります。

7. 医療事情について

（1）医療水準

大洋州は医療水準の極めて低い地域になります。PNG も例外ではなく、軽微な疾患は国内でも対応は可能ですが、手術や長期の入院が必要な傷病はすべて緊急移送や第三国受診が検討されます。首都には CT/MRI 等の高度な医療機器と専門医がいる総合病院が一つありますが、地方ではほぼ公立病院のみとなり、最低限の検査でさえ実施不可能な場合があります。そして PNG は地方と首都間の移動が欠航や遅延の多い空路のみとなるため、私立病院のある首都への移動ですら速やかに行えない場合があります。地方配属の隊員はかなり厳しい医療環境での活動になることを認識し、予防と早期対応を心掛ける必要があります。

（2）PNG で注意すべき傷病と対策

・蚊媒介感染症

一部の山岳地帯を除き、PNG 全土で一年を通じて常にマラリアとデング熱に感染する危険があります。PNG のマラリアは 70～80% 近くが悪性の熱帯熱マラリアであり、感染リスクもサブサハラアフリカと同じくらい高い国とされています。早期受診が遅れると重症化し死亡することもある感染症です。「マラリア・デング熱の ABC」を熟読してきてください。赴任時オリエンテーションでは、マラリア予防薬・マラリア迅速テストキット・スタンバイ治療薬の現物支給を行う予定です。

PNG には蚊媒介感染症として他にも、フィラリア症、チクングニア熱、ジカウイルス感染症などが流行しています。そのため、防蚊対策が非常に重要です。肌に塗布する昆虫忌避薬（虫よけスプレー）は、現地購入可能です。ワンプッシュで長時間効果がある虫よけルームスプレーはありませんが、部屋用殺虫剤は様々なタイプの物が流通しています。長袖・長ズボン・靴下の着用は他の害虫・怪我対策にもなりますので、暖かい国ではありますが活動や日常生活で使いやすいものをご準備ください。

・出発前のマラリア予防薬内服の推奨と購入について

事務所では出発前のマラリア予防薬内服を推奨しています。訓練所で配布する派遣前オリエンテーション資料「マラリアの ABC」及び「マラリア予防薬の費用補助について」を熟読し、処方

受けるためにトラベルクリニック/海外渡航外来の受診を推奨します。予防薬は費用補助対象の3剤すべてが流通していますが、メフロキンのみ事務所から現物給付が可能です。基本的にはメフロキンを選択して頂き、医師から禁忌や副作用、使用方法の説明をしっかりと受けてください（メフロキンが服用できない、取り扱いがない場合は他予防薬を検討してください）。

・毒蛇咬傷

PNGは数多くの毒蛇がおり、パプアンタイパンなど致死性の毒を持つ蛇も生息しています。毒蛇の活動場所である草むらや農園、森林などには立ち入る際は十分な注意が必要です。活動上そのような場所に行く必要がある隊員は、長靴を持参することをお勧めします。（現地購入可能ですが、サイズや流通が不安定）

・新型コロナウイルス感染症

2023年度より政府から公式な感染者数の発表がなくなり、国際機関や他公的機関の更新も停止しているため、流行状況を公的なソースで確認することは出来なくなっています。マスクや手指消毒剤などの感染対策の物品は現地購入可能です。ワクチン接種は現在行われていません。希望される方は日本で実施してください。

・歯科

PNGは物価が高いため、詰め物をする/外れた被せ物を再接着する等の最低限の治療が1~2万円程と治療費も高額になるため、日本でしっかりと治療を済ませてください。特に地方の歯科は衛生管理・歯科技術に懸念があるため首都の歯科受診をお勧めしていますが、航空券代は自己負担になります。* 歯科と既往症は交通費が自己負担、治療費も一部負担となります。

(3) その他

解熱鎮痛薬は必ずアセトアミノフェン単剤の物もご用意ください。基本的な医薬品は現地購入可能ですが、使い慣れた市販薬がある場合は持参してください。治療中の疾患がある場合、使用中の薬の現地調達の可否は健康管理員に照会してください。他の医薬品の調達可否についても照会可能です。

マスクや手指消毒剤、コンタクト保存液やナプキンなどの衛生用品に関しても、メーカーや品質にこだわりがなければ、大概のものは入手可能です。しかし流通が不安定であり再入荷までに時間を要することもあるため、最初に必要な分は持参頂く事をお勧めします。

眼科疾患に罹患した際はコンタクトの利用を避けることが必要です。度数のあった眼鏡も必ず準備してください。

8. 蚊帳について

当国はマラリア・デング熱流行地域のため、就寝時は蚊帳の使用が必要です。在庫や流通が不安定ではありますが、首都のショッピングモールや一部の薬局で現地調達可能です。

9. 任国での運転について

現在、単車・四輪自動車の使用は認められていません。

10. お問い合わせ

任国での活動に関する質問は、以下のボランティア班スタッフにメールでお問い合わせください。

※長期隊員の方は、お問い合わせは派遣前訓練が開始してから行ってください。

※活動や任地での生活に関わる内容以外の質問はお控えください。

ボランティア班共有アドレス : jicapng_volunteer@jica.go.jp

11. その他

(1) 到着日について

ポートモレスビー空港に到着後、各自で入国審査及び通関手続きを行い、到着ロビーへ進みます。企画調査員（ボランティア事業）が到着ロビーで出迎えます。首都での赴任時オリエンテーション期間中は、ホテルに宿泊します。

(2) クレジットカードについて

ホテルや大手スーパー等では、主に VISA、Master、場所によっては、American Express や Diners 等の利用が可能です。(但し、店舗によっては利用総額の 2~5%を手数料として徴収されます。)ただし、ホテル等の利用はスキミング犯罪にあう可能性もあるため最低限の利用に留めることをお勧めします。

当国赴任後に、有事の際の緊急移送に備え、隣国オーストラリアの入国ビザ (ETAS) を取得していただきます。ETAS 取得料金の精算はクレジットカードのみ対応可となっていますので、前述の国際ブランドのクレジットカードをご持参ください。尚、ETAS 取得後、取得に係った料金を事務所に請求頂き、現地通貨で返金します。

万が一対応するクレジットカードをお持ちでない場合は赴任前に前項に記載の連絡先まで対応をご相談ください。

当国の銀行である BSP 銀行もしくは Kina 銀行の口座開設後、デビットカード (VISA) とインターネットバンキング用 ID の発行が可能です。ただし発行までに数週間~1 か月程度を要します。デビットカードは主要なホテルやスーパー等で利用可能です (利用手数料 : 0.25PGK/1 回)。

参考 : BSP 銀行の Web サイト

<http://www.bsp.com.pg/Personal/Retail-Banking/Accounts/Transaction-Accounts/Transaction-Account.aspx>

(3) 気候について

- 当国は熱帯雨林気候で、雨季 (11 月~4 月) と乾季 (5 月~10 月) があります。
- 気温は、地域によって異なります。首都ポートモレスビーでは年間を通して 27°C、内陸部のハイランド地域では夜間になると 10°C 近くまで冷え込むこともあります。
- 雨季・乾季に分かれています。地域によって雨の時期がずれており、年間降雨量も地域によって大きな差があります。
- 昼間は気温が高く、日差しも強いです。暑さ対策として、帽子、サングラス、日焼け止め等が有効です。ハイランド地域では早朝、夜間に急激に冷え込むこともありますので、セーター、ジャケットが必要となることもあります。これらの物品は、品質等にこだわらなければ当国でも購入可能ですが、予め任地の気候を調べて、必要に応じて日本から持参することをお勧めします。

場所	気温・降水量	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ポート モレスビー	最高気温	32	32	31	31	31	30	30	30	31	32	33	32
	最低気温	24	24	23	24	24	23	22	23	23	24	24	24
	降水量(mm)	192	141	190	105	56	22	14	12	14	15	40	98

(4) 電気、電力事情について

- 電気機器のコンセント形状は、「0 型」(I タイプ) と呼ばれる「ハ」の字型の形状のもので、日本の「A 型」(A タイプ) を「0 型」(I タイプ) に変換するアダプターは、首都ポートモレスビーのショッピングセンターでも購入が可能です。
- 電圧は 240 ボルトです。日本から 100V にのみ対応する電気機器を持参する場合、それに対応するため変圧器も持参することをお勧めします (現地では変圧器は手に入りやすく、また高価であるため)。
- 100~240 ボルトに対応する電気機器の場合は、当国でそのまま使用できます。ただし停電等による電圧不安定もあるため、サージプロテクター (過電流防護装置)、UPS (無停電電源装置) 等の利用をお勧めします。こちらは現地でも購入が可能です。
- 停電は頻繁に発生します。首都では停電時にバックアップ発電機を稼働させて給電する建物が多いですが、地方ではバックアップ発電機を備え付けている場所は少なく、停電が長時間に及ぶこともあります。また配属先機関によっては、決まった時間帯のみ電気が使用できる

というところもあります（例：6AM～2PM 及び 6PM～10PM の時間帯に電気使用可能）。

- 停電時の通信手段確保のため、携帯電話用モバイルバッテリーの持参をお勧めします（首都ポートモレスビーでも購入は可能です）。

以上